

太字は定期接種、細字は一部の地域でまたは一部の子どもに接種。

予防接種種類	出生時(24h内)	1か月	2か月	4か月	5か月	6ヶ月	12か月	15か月	18か月	27か月	5歳～入学前
BCG ^{*1} TB(tuberculosis)					BCG①						
DPT(三種混合) ^{*2} Diphtheria,Pertussis,Tetanus			DTaPHibIPV ^{*12} ①	DTaPHibIPV②		DTaPHibIPV③			DTaPHibIPV④		DTaPIPV ^{*12} ⑤
ポリオ ^{*3} Poliomyelitis			DTaPHibIPV ^{*12} ①	DTaPHibIPV②		DTaPHibIPV③			DTaPHibIPV④		DTaPIPV ^{*12} ⑤
B型肝炎 ^{*4} Hepatitis B	HepB①	HepB②				HepB③					
Hib ^{*5} Haemophilus influenzae b			DTaPHibIPV ^{*12} ①	DTaPHibIPV②		DTaPHibIPV③			DTaPHibIPV④		
肺炎球菌 ^{*6} Pneumococcus			PCV13①	PCV13②			PCV13③				
ロタウイルス ^{*7} Rotavirus											
MMRワクチン ^{*8} Measles,Mumps,Rubella							MMR①				MMR②
麻疹(はしか) Measles											
おたふくかぜ Mumps											
風疹 Rubella											
水痘 Chickenpox (Varicella)							水痘①				
インフルエンザ Influenza							生後6か月以上で初年2回、以後毎年1回毎年				
A型肝炎 ^{*9} Hepatitis A							HA①		HA②		
髄膜炎菌 ^{*10} Meningococcus											
日本脳炎 Japanese Encephalitis								日脳①		日脳②	日脳③
パピローマウイルス ^{*11} Human Papillomavirus											
黄熱 Yellow fever											
その他											

《以下は一般の方にも理解していただくために本図作成者が加えた説明です》

- *1 BCGは結核のリスクが低下した先進国で定期接種されていない国があります。一方、発展途上国の多くでは出生時(新生児期)に接種します。
- *2 日本ではDPTですが一般には"DTP"と表現されます。先進国では精製百日咳ワクチンを含むDTaP(わが国もDTaP)が、発展途上国では百日咳菌体ワクチンを含むDTwPワクチンが主流です。
- *3 ポリオワクチンには、経口生ワクチン(OPV)と、不活化ワクチン(IPV)とがあります。ほとんどの先進国ではIPVが主流になっています。わが国では2012年9月からIPVに切り替えられました。
- *4 WHO(世界保健機関)はB型肝炎ワクチンをすべての子どもに接種するように勧告しており、現在では世界のほとんどの国で乳児期の定期接種に加えられています。
- *5 Hib(Haemophilus influenzae type b:インフルエンザ菌b型)は乳幼児の細菌性髄膜炎の最も頻度の高い原因菌です。
- *6 肺炎球菌は乳幼児の細菌性髄膜炎の主要原因菌であり、肺炎や中耳炎の原因ともなります。乳児期からの接種は結合型肺炎球菌ワクチン(Pneumo-conj=PCV)です。7価、10価、13価ワクチンがあります。
- *7 ロタウイルスは乳幼児の感染性胃腸炎の主要な原因ウイルスです。ロタウイルスワクチンはいずれも経口生ワクチンで2種類(ロタリックスとロタテック)が市販されています。
- *8 MMRワクチンは麻疹、おたふくかぜ、風疹の混合ワクチンです。世界中で広く使用されており、MRワクチン(麻疹+風疹)は少数派です。
- *9 A型肝炎は生の食べ物や飲み物を通じて経口感染するウイルス性肝炎です。食品衛生環境の不良な地域ではリスクが高まります。
- *10 髄膜炎菌はHibや肺炎球菌と異なり、年長児や成人でも髄膜炎の原因となります。わが国では4価髄膜炎菌ワクチンMenACWY(メナクトラ)が市販されています。
- *11 HPV(ヒトパピローマウイルス)は子宮頸がんなどの原因となるウイルスです。サーバリックス(Cervarix:2価)とガーダシル(Gardasil:4価、9価)のワクチンがあり、同一種類で完了します。
- *12 多種混合ワクチン:DTaPまたはDTwPの三種混合ワクチン(*2参照)を基本として、Hib、B型肝炎(Hep)、不活化ポリオ(IPV)などの混合ワクチンが多くの国で使用されています。

《その他の主な使用可能ワクチン》:

《2012年2月版からの主な記載変更事項》

- 1) BCG接種時期が申請時期から5か月に変更されました。
- 2) DTaPHibIPVワクチンが導入されています。接種時期は変わっていません。また、6歳時のDTaP+不活化ポリオワクチンが、混合ワクチン(DTaPIPV)に変わっています。
- 3) 小児用肺炎球菌ワクチン(PCV13)が導入されています。
- 4) 6歳時の接種が5歳～小学校入学までとなりました。
- 5) A型肝炎が定期接種化されています(1歳、6か月間隔)
- 6) 11歳のTd接種の記載がなくなっています。